

環境問題に関する事項（概況）

1. 地球温暖化対策

日薬連は高品質な医薬品の安定供給による日本の医療への貢献はもとより、重要な社会課題である気候変動問題に対しても積極的に取り組んでいる。経団連が 2050 年カーボンニュートラル達成に向けて推進している「カーボンニュートラル行動計画」に引き続き参加しており、2021 年度には経団連の CO₂ 排出量削減目標見直し要請に基づき、長期ビジョンを「2050 年 CO₂ 排出量ネットゼロ」、2030 年度目標を 2013 年度比 46%削減に改定した。2022 年度では、低炭素社会実行計画の最終年度である 2020 年度目標を達成できたことを、7 月に開催された厚生労働省による低炭素社会実行計画フォローアップ会議にて報告した。また、カーボンニュートラル行動計画（2030 年度目標）およびフロン検討部会で取り組んでいる代替フロン（HFC）排出量削減目標に対する 2021 年度の製薬業界の進捗状況を調査し、経団連および厚生労働省に報告書を提出した。

- (1) 低炭素社会実行計画（2020 年度目標）最終年度の結果報告
- (2) カーボンニュートラル行動計画（2030 年度目標）の進捗報告
- (3) 代替フロン（HFC）の排出量削減目標に対する進捗調査

2. 省資源・廃棄物対策

経団連が 2016 年度以降、「環境自主行動計画」から名称を新たにして取り組みを継続する「循環型社会形成自主行動計画」に引き続き参加するとともに、製薬業界独自の自主行動計画（2021～2025 年度自主行動計画）に基づき、2021 年度の目標に対する進捗状況を調査し、結果を経団連に報告した。また、2019 年度に設定した 2030 年を目標とする“廃プラスチック再資源化率目標”に加え、2025 年度を目標年度とした産業廃棄物対策に関する目標、「経団連第五次目標」並びに「日薬連独自目標」を確認した。医療系一般廃棄物問題については、関係省庁、外部業界団体・協議会に積極的に対応した。

- (1) 経団連環境自主行動計画（循環型社会形成自主行動計画）への対応
- (2) 経団連環境自主行動計画に関するフォローアップ体制の維持
- (3) 2025 年度を目標年度とした産業廃棄物対策に関する目標の確認

3. 環境セミナー

2021年度に引き続き、COVID-19の感染予防に配慮したウェビナー形式により、近年の行政当局の方向性や最新規制情報・技術紹介などの共有を目的とする第3回環境セミナーを開催した。

環境問題に関する事項

1. 地球温暖化対策

2020年度を目標年度とした「日薬連低炭素社会実行計画」に対する製薬業界の取り組みは目標を達成できたことを、7月に開催された厚生労働省による低炭素社会実行計画フォローアップ会議にて報告した。また、カーボンニュートラル行動計画（2030年度目標）およびフロン検討部会で取り組んでいる代替フロン（HFC）排出量削減目標に対する2021年度の進捗状況を調査し、経団連および厚生労働省に報告書を提出した。これらの詳細を以下に示す。

(1) 低炭素社会実行計画（2020年度目標）最終年度の結果報告

低炭素社会実行計画（2020年度目標）は2020年度CO₂排出量を基準年度である2005年度比で23%削減することと設定している。本計画に対する最終年度のCO₂排出量は、日薬連進捗管理係数を用いて算定したところ176.9万t・CO₂であり、2005年度の排出量231.7万t・CO₂に対して54.8万t・CO₂削減であり、目標達成となる23.7%削減であった。前年度比では2.3万t・CO₂の減少となる2.8%削減であった。また、原単位指数も改善しており、高効率機器の導入、エネルギーロスの低減対策等の進捗が寄与したものと考えられる。

(2) カーボンニュートラル行動計画（2030年度目標）の進捗報告

カーボンニュートラル行動計画（2030年度目標）は2030年度CO₂排出量を基準年度である2013年度比で46%削減することと設定している。カーボンニュートラル行動計画では進捗状況の把握には調整後排出係数を使用することとしており、2021年度のCO₂排出量は218.1万t・CO₂であり、基準年度である2013年度の排出量262.2万t・CO₂に対して44.1万t・CO₂の削減、前年度比では、1.1万t・CO₂の増加となった。これはコロナ禍で停滞していた事業活動が動き始め、活動量が増加したことに起因すると考えている。また、2030年度目標（141.6万t・CO₂）に対する進捗率は、削減年率2.7%から算出した

2021年度における期待される進捗率 47.1%に対し 36.6%となり、遅延していることが明らかとなった。

(3) 代替フロン（HFC）の排出削減目標に対する進捗調査

CO₂以外の温室効果ガス排出抑制への取り組みとして、喘息及び慢性閉塞性肺疾患の治療に用いられる定量吸入剤に使用される代替フロン（HFC）の使用段階での排出量削減に取り組んでいる。HFC排出削減目標は2010年度HFC予測排出量540tの79.6%削減である110tとすることとしている。2021年度における排出量は88tであり、目標である110tを達成した。また、HFC排出量のCO₂換算量は前年度比で6.3%減少となる23万t・CO₂eであった。ただし、直近の5年間のHFCの排出状況を見ると約81tから88tとやや増加している。これは、自己呼吸で吸入が困難な患者が一定数存在すること、および喘息及び慢性閉塞性肺疾患の患者数が増加傾向を示しており、また次第に患者が高齢化していることも原因と考えられる。このように、昨今の吸入剤の市場は増加見込みであるが、今後も目標値以下を維持していきたい。

2. 省資源・廃棄物対策

日薬連は、経団連が「環境自主行動計画」から名称を新たにして取り組みを継続する「循環型社会形成自主行動計画」に参加するとともに、製薬業界独自の自主行動計画（2021～2025年度自主行動計画）を策定し、2021年度より取り組みを開始した。

また、医療系一般廃棄物問題については、関係省庁、外部業界団体・協議会などでの会合・協議にも積極的に対応した。

(1) 経団連環境自主行動計画（循環型社会形成自主行動計画）への対応

経団連の環境自主行動計画のフォローアップ調査に合わせて、製薬業界の2021年度における進捗状況を調査し、結果を経団連に報告した。

2021年度の産業廃棄物最終処分量は5.7千トンであり、基準年度（2000年度）比80.7%減で、目標（75%程度削減）を達成した。また、2021年度の廃棄物再資源化率（再資源化量／廃棄物発生量）は63.4%（目標60%以上）と共に目標を達成した。その他、2021年度の廃プラスチック再資源化率は、62.7%（目標65%以上）であった。

(2) 環境自主行動計画に関するフォローアップ体制の維持

2016年度に日薬連環境委員会内に設置したワーキンググループを中心に、2021年度実績を調査した。

(3) 2025年度を目標年度とした産業廃棄物対策に関する目標の確認

2019年に新規設定した「2030年度の廃プラスチック再資源化率を65%以上に
する」に加え、2025年度を目標年度とした産業廃棄物対策に関する目標（経団
連第五次目標）として「2025年度の産業廃棄物最終処分量を2000年度実績比
75%程度削減する」および日薬連独自目標として「2025年度の産業廃棄物再資
源化率を60%以上にする」を確認した。

3. 環境セミナー

2021年度に引き続き、COVID-19の感染予防に配慮したウェビナー形式により、
行政当局の方向性や最新規制情報・技術紹介などの共有を目的とする第3回環境セ
ミナーを2023年2月22日（水）に開催した。

省庁及び民間企業より講師を招き、「プラスチックに係る資源循環の促進等に関す
る法律について」（環境省）、「省エネルギー政策の今後の方向性」（経済産業省）、「プ
ラスチック循環資源法施行に伴い現場は何をする？」（日本環境開発株式会社）のテー
マについて発表頂いた。委員会からは活動報告として「日薬連カーボンニュートラル
行動計画の取り組み」、「日薬連循環型社会形成自主行動計画の取り組み」を発表した。
セミナー終了後、期間限定で全講演内容の動画をYouTubeに掲載した。